

痛みを寄せないながら

床ずれにならない生活のために

「痛みのない過ごし方を」

高齢による身体機能の低下にともない危険となるものの一つに床ずれが挙げられます。愛全園ではチーム一丸となり、利用者の方の痛みを感じ取り、床ずれの予防・改善に取り組んでいます。この取り組みにより、平成22年度には床ずれの見られた29人の方のうち18人の方の床ずれの改善・完治につながりました。その中で改善が見られたAさんの事例をご紹介します。

「痛みのない過ごし方を」
Aさん(89歳・男性) 糖尿病を患われています。床ずれは平成22年6月後半に右足の外側にできました。寝ているときのAさんは、体を動かし、右手でベッド柵を持ち右側を向くことが多いため、同じ場所に圧がかかり、床ずれができたのではないかと考えました。

床ずれって何?

体重の集中する部位と寝具などにはさまれた皮膚組織が圧迫され、血液の流れが悪くなり皮膚や組織が損傷することです。

〈起こりやすい要因は?〉

- 長時間、同じ姿勢で過ごすことでの圧迫
- 栄養状態の低下 ●湿り気
- 摩擦 ●極度のやせ
- 全身機能の状態の低下など

介護部



体位変換(体の向きを変えること)

右向きの圧迫を防ぐため左向きと仰向けに限定しました。

クッションの活用

膝下と右足の下に当て、圧をやわらげました。

声かけやかかわり

夜に声を出された時や動きが見られた時には、声をかけ、かかわりを持つことで安心して過ごせるよう心がけていきました。

Aさんの床ずれ改善に向けて

食養部



栄養状態の観察

食事の摂取量や体重などに変化が無いを見ていきました。現状では栄養状態や血液検査に異常は無いので補助食品は使わずに様子を見ました。

看護部



医療的処置

嘱託医の診断のもと医療処置(感染治療剤クリームを塗りガーゼでの保護)を継続して行いました。また、処置の際に床ずれの経過を見ていきました。

「思いを受け入れて」

そのため、上の図のような対応を、それぞれの部署で実施しました。

しかし、改善の効果はなかなか見えてきませんでした。体位変換を行っても、時間がたつと右に向く行動は続き、クッションもずれることが多く見られたのです。

そこで10月後半には、右に向きたいAさんの思いを抑えずそのまま受け入れ、同じ姿勢でも空気調整により圧が分散するタイプのエアマットレスに変更を行いました。また、引き続き体位変換、クッションの活用を行いました。

そして、本人の思いをくみ取れるように声をかけ、少しでも痛

みがやわらぎ、安心できるようにかかわっていききました。

「見えてきた望み」

エアマットに変更した初日、Aさんの気分はすぐれない様子でした。原因は特定できませんが、圧のかかり方の違いで、船酔いのような状態になったと考えられました。その後は、体調も回復されたの

で継続して気分に変化がな
いかを見ていききました。

そして床ずれの発生から
8か月後、徐々に改善が見
られてきたのです。

改善前は処置をする際に
床ずれの部分を痛がる様子
が見られましたが、改善後は
痛みを訴えることも少なくな
っていききました。

『苦痛なく過ごしていただ
きたい』という思いによ
うやく望みが見えてきたのです。



改善後、腫れ赤みともに軽減され、
傷も小さくなりました



改善前は、床ずれの周囲に腫れと赤み
が見られました



Aさんの奥さんと一緒に

『その方の思いを知ろうと
すること』 介護はすべてこ
こから始まります。このこと
は、事例を通し、床ずれの予
防・改善にも必要であること
を改めて気づくことができ
ました。

『苦痛なく過ごしたい』と
いう思いは皆さんもつてお
られると思います。しかし、
痛みがあるときに、思いを言
葉に出して伝えられる方ば
かりではありません。その思
いやその人の変化をかわか
りの中で気づける心が必要
だと思います。

今後もその方の心に寄り
添いながら支援することで、
利用者の皆さんが安らかに
過ごせることを望みます。

みんなの広場

今月は「子どもの日」があるので、改めて節句の由来についてご紹介します。

節句(節供とも書く)とは、1年の節目となる日のことで最初は中国から伝わった暦上の節目の奇数が重なる日に邪気を祓う行事のことでしたが、日本に伝わった後、少しずつ変化してきたようです。桃の節句は、もともとは人形が身代わりとなる流し雛の儀式が起源となり、端午の節句は、菖蒲しょうぶが尚武しょうぶ(武道・武勇を重んじること)と同じ読みであることなどから男の子の成長を祈る儀式となりました。



利用者の方に何うと「こんな風にするようになったのは終戦後だな～」昔は大きな庄屋さんに人形があるだけで、うちんところにはなかったで、お呼ばれして見せてもらってうらやましかったわ」と、いろいろな声を聞くことができました。

季節を感じる儀式を通して、自分が経験できなかった思いと、娘さんや息子さん、お孫さんの成長を願う気持ち(望み)を重ねているのではないのでしょうか。